



こしんでん

令和5年6月20日発行

— 第5号 —

浅羽東小学校のHP <https://asabahigashi-e.fukuroi.ed.jp>

学校メールアドレス asahigashi-s@orange.ocn.ne.jp



！学期を締めくくる！

新たに「東小の文化をつくる」というサブ目標を追加してスタートした令和5年度も、3か月が過ぎようとしています。1学期も残すところひと月となりました。

年度始めに子どもたちと共有した

- 浅羽東小の子は人の話をしっかり聴きます
- 浅羽東小の子は相手の心に届くあいさつをします
- 浅羽東小の子はいじめ、いじわるをゆるしません

これら3つの姿を本校の文化にしたいと願い、これまで折にふれて子どもたちに伝えたり、子どもたちと話し合ったりしてきました。

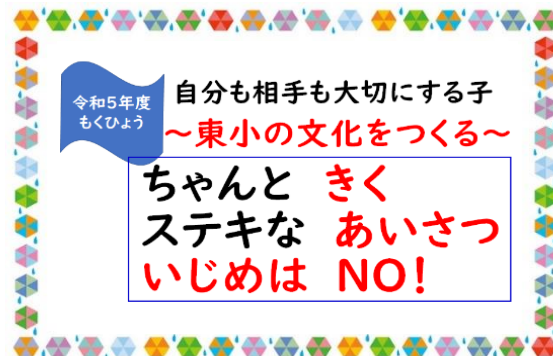
話す人の方を向いて聴く、うなずきなど反応しながら聴くということができている子どもも大勢います。また、教室へ入る時や朝出会った時に、相手を幸せにするあいさつができている子どもも増えてきたように感じています。

しかしながら、「文化（そこで生活する人の間に定着していく習慣や考え方）」というレベルに到達するには、まだまだ長い時間と継続的な指導、さらには地域や家庭をも巻き込んだ取り組みが必要であると感じています。保護者の皆様にも、本校の目標や目指す子どもの姿の共有をお願いいたします。各家庭においても機会をとらえて学校の様子や地域での生活について子どもたちと話し合い、一緒に考えていただければ幸いです。

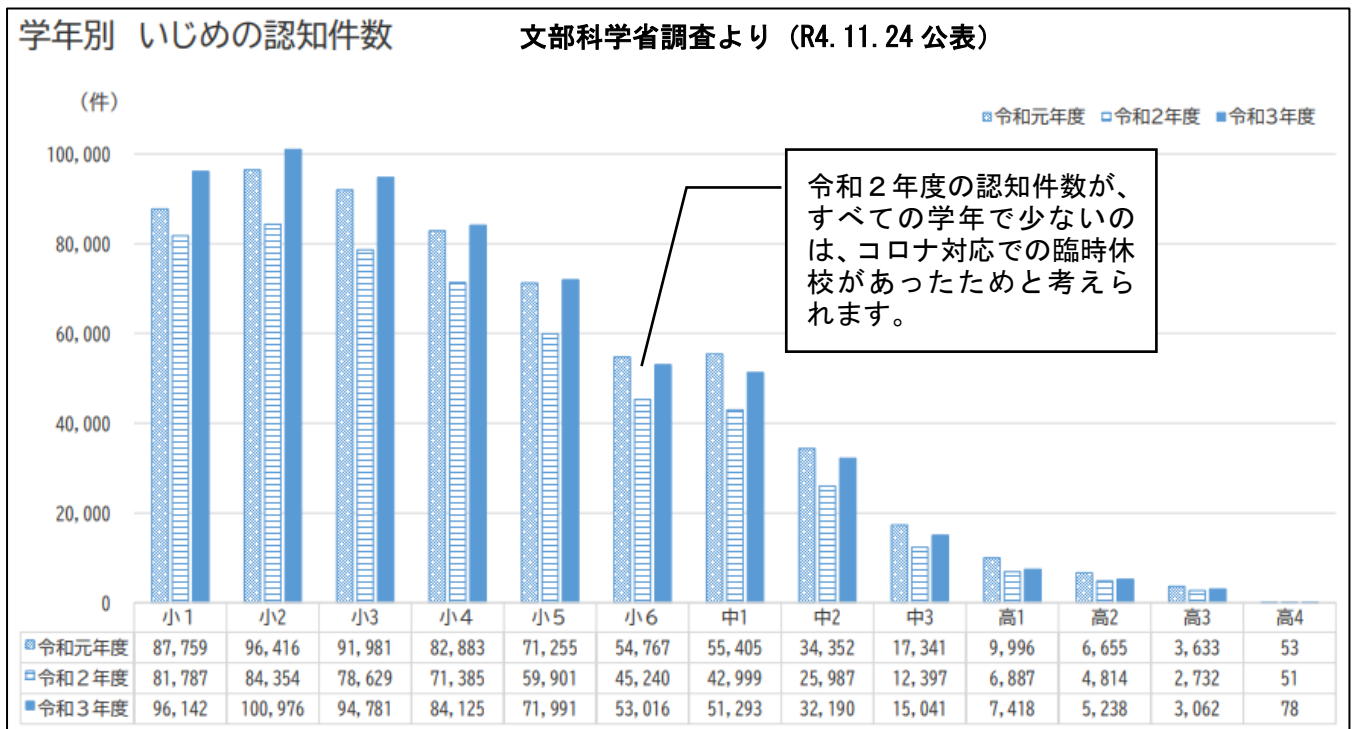
撲滅に挑戦しているいじめですが、今年度に入ってからすでに数件のいじめを認知し、その都度、指導をしてきました。いじめの訴えや疑いがあった場合については、校内いじめ対策委員会を開き、情報収集をして指導方針を決定し、対応しています。いじめはどんな理由があっても許されるものではありませんが、加害者となった児童にもその子なりの事情がある場合がほとんどです。どんな理由があってもいじめを許容することはありませんが、加害者側の事情の理解にも努めております。それゆえ、被害児童の保護者だけでなく、加害児童の保護者とも連絡を取り合い、家庭での支援や指導もお願いしております。

裏面に文部科学省が毎年実施している全国調査における「いじめ認知件数」のグラフを掲載しました。いじめの認知件数が最も多いのは小学2年生です。低学年を中心にいじめが多く発生していることがわかりますが、このグラフが示す数字は、あくまで学校が把握できた件数です。学年が上がるにつれ、手口が巧妙化していく可能性や子どもの側に被害を訴え出ることを躊躇する傾向が出てくることを考えると実際の数字はもっと多いと考えられます。学校も保護者も気付いていないケースもある可能性があります。

いじめは、「被害者」と「加害者」の間だけで成立しているように思われがちですが、その周囲に「聴衆」と呼ばれるはやし立てたり、面白がって見ていたりする人がいます。さらに「傍観者」と呼ばれる、人がいじめられているのに気付いているにもかかわらず無視している人、見て見ぬふりをしている人も存在します。



欧米と比べると、日本ではいじめを制止しようと行動できる人が少ないと言われます。それゆえ、いじめ被害に遭っている子どもは、「聴衆」も「傍観者」も加害者側にいるように感じます。「だれも自分を助けてくれない」「みんなが自分をいじめてくる」と子どもが感じているとしたら、精神的な辛さはどれほど大きなものでしょう。



いじめを撲滅するために

今年度、本校では、いじめ撲滅を目標の一つに掲げ挑戦しています。しかしながら、国立教育政策研究所の調査では、いじめは、どの学校の、どの教室の、どの子どもにも起こり得ると報告されています。90%の子どもが、いじめの加害者にも被害者にもなっていたという調査結果に基づく報告です。

起きて当たり前とも言えるいじめを撲滅したいと願うのは、いじめが子どもたちに与える悪影響が計り知れないからです。大げさではなく、その子の一生を変えてしまう可能性もあります。いじめ加害者が、何の反省もせずそのまま大人になってしまったら、一体どんな大人になるのでしょうか。一方、被害者については、国内外を問わず、凶悪事件の犯人が、実はかつていじめの被害を受けていたと報道されることも珍しくありません。いじめられたことで、その人の人格も人生も変えられてしまったのです。

いじめを撲滅するためにも、本校の重点目標「自分も相手も大切にする子」を育成していかなければなりません。人の痛みが分かる思いやりのある子どもを育てるためには、まずは子どもにかかわるすべての大人が「子どもに寄り添い子どもの痛みを分かろうとすることや、人の痛みを分かろうとする姿を見せること」、「思いやりのある言動を子どもに対してとることや、手本として見せること」が大切だと思っています。

そして、子どもが思いやりのある行動ができた時には、それが価値ある行動であることを認め、すかさずほめることも重要です。成長過程にある子どもたちの「正しく判断し行動する力」は周囲の大人の言動によって養われていきます。

いじめが起こる場の多くは学校だと考えていますが、学校の努力だけでいじめを撲滅できるとは思っていません。保護者の皆様や御家庭の協力、地域のみなさんの理解と協力が不可欠です。

熱中症と新型コロナウイルス感染症への警戒を！

本格的な夏を迎え、熱中症が心配されます。コロナも第9波か？との報道が出てきました。お子さんの体調の管理と確認、何より規則正しい生活をお願いいたします。

